

令和7年度 学校評価報告書【国立市立国立第二小学校】

令和8年1月

令和7年度の学校教育目標に対する学校評価を以下のように進めた。 ①教員アンケート(9月・12月に実施) ②保護者アンケート(12月に実施) ③児童アンケート(12月に実施)

| | | | | |
|--------|-----------------------|------------------------------------|--|--|
| 学校教育目標 | かしこく ◎あたたかく つよく | すすんで取り組む子 仲良く助け合う子 健康でたくましい子 | 深く考え豊かに表現する子 全ての命を大切にする子 最後までやりぬく子 | 重点目標 あたたかく 仲良く助け合う子 全ての命を大切にする子 |
|--------|-----------------------|------------------------------------|--|--|

| 学校教育目標 | 中期的目標 | 短期的目標 | 具体的な方策 | 評価指標 | 達成状況 | | | | 分析 | 改善策 | 学校関係者評価 |
|-----------|---------------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------------------|---|---|----------------|-----------------|--|---|---|
| | | | | | 教員 中間 評価 | 教員 最終 評価 | 児童 最終 評価 | 保護者 最終 評価 | | | |
| かしこく | よさ、可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校 | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | ICTを活用した協働的な学びの推進 | 児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が90%以上 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 肯定的な回答が概ね9割である。一人一台端末を適切に活用した授業を展開し、児童もその成果を感じている結果だと考える。 | 引き続き一人一台端末をはじめとしたICTを積極的に活用した授業展開や教材開発を進め、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。 | 【目標(かしこく)に関して】 「ICTは大切だが、五感を使った教育や得意なことを伸ばす教育を充実させてほしい」 →生活科や総合、実技教科等を中心に五感を使った多様な授業や児童が自己決定し良さを伸ばせる授業を今後も展開していく。更にデジタル端末を活用しつつ、ノート等への記述による思考の整理や表現も重視し、書く力の確実な定着を図る。 |
| | | | 自己決定できる授業の推進 | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | 児童及び教員は肯定的な回答が9割を超えた。画一的な一斉授業ではなく、児童が柔軟に選択出来たり、学習を調整できたりする授業に多くの教員が取り組んだ結果だと考える。 | 引き続き、各教科の特性を生かし、児童が選択・判断できたり、自分で計画を立てて学習に取り組めたりするような授業構成を意識し、授業改善に当たる。来年度授業研究の中で自己決定できる授業を推進していく。 | |
| あたたかく | 思いやりをもち、相手の気持ちを考えて行動できる学校 | ①人間関係形成力の育成 | いじめの防止 | 児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が90%以上 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | 肯定的な回答が児童は87%、保護者は92%をこえている。未然防止のための職員の研修を短く定期的に行ったり、いじめ対応に、学校全体で対応している事がアンケート結果に表れてると考える。 | アンケート結果が良好なので、いじめ防止基本方針や対応手順など職員が更に理解を深めていく必要がある。 | 【目標(あたたかく)に関して】 「あいさつの指導は声を出すことを強要するのではなく、あいさつをすることが苦手な児童への配慮や『会話の充実』という観点も大切にしてほしい」 →あいさつが自然と交わされる温かな人間関係を土台に、友人や地域、教職員との信頼を一層深めます。今後も日常的な会話や対話を重視し、互いを認め合い、高め合えるような豊かなコミュニケーションの活性化を図ります。 |
| | | | あいさつの推進 | | ○ | ▼ | ○ | ○ | 肯定的な回答が児童・保護者共に85%をこえている。ただ、他のアンケート結果に比べ、全体的に数値が低くなっている。特に教員の評価が低く、対策を考える必要がある。 | 教職員が児童の名前を呼んで挨拶をしたり、児童が主体となった活動や授業を意図的に計画したりして、児童の能力を伸ばさせる。 | |
| | | | ふわふわ言葉の推進 | | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | 肯定的な回答が児童は91%、保護者は92%をこえている。ふわあい月間を中心に声をかけている「ふわふわ言葉」に関して、児童・保護者、どちらにも認知されていると考えられる。 | アンケート結果が良好なので、月目標やふわあい月間と連動し、今後も継続して指導していく。 | |
| つよく | 健康な心身と、たくましい心情を育む学校 | ②一人一人がそのらしくいられる教育環境 | UD環境(合理的な配慮) | 児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が90%以上 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 肯定的な回答が児童は93%、保護者は96%である。新しい校舎になったことで、環境に関するアンケート結果が良好だったのではないかとと思われる。 | 教室の環境整備に更に努める。 校内支援体制については、4月当初だけでなく、9月にも説明し、保護者に周知していく。 | 【目標(つよく)に関して】 「家庭との連携の中で『子供と一緒に連絡を確認』という文言は、現在の実態に合っていないのではないか」 →お便りや連絡の周知が目的なので、来年度は文言を変更する。学校の情報が保護者に届くことで、さらに学校への理解推進を図る。 |
| | | | 体力づくり | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 教員、児童及び保護者の評価は◎であった。限られた場所であったが、単元構成を工夫し、学年間での協力体制を強固にした結果と考える。 | 今後も限られた校庭での授業の充実を図っていく。また、設備や備品を柔軟な発想で工夫して活用し、児童が主体的に運動に親しめる環境を整える。 | |
| | | | アレルギー対応 | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | 教員、児童及び保護者の評価は◎であった。特に、保護者の肯定的な回答は95%をこえた。学校側の対応に安心感をおぼえてくださった結果と考える。 | アレルギー対応研修等を活用し、教員も適切な対応ができている。今後も食育及びアレルギー対応を推進していく。 | |
| 地域・家庭との連携 | ◎ | ◎ | ▼ | ○ | 二松クラブや学習ボランティアなどの連携協働に対し、教員及び保護者の評価は◎であった。特に、保護者の肯定的な回答は90%をこえた。 学校HPや学校便りの関心にかかわるアンケートでは、保護者は84%、児童は▼であった。特に児童は、各学級でのお知らせ(クラスルーム等)を頼りにしていることが分かる。 | コミュニティ・スクールとなり、二松クラブや学習ボランティアなどの地域連携協力活動についての認知は上がったので、さらに今後も深めていく。 学校HPがリニューアルされたことを周知し、積極的に情報を発信していく。また、『すぐーる』の活用度をさらに高めていく。 | | | | | |

到達の指標 A 児童・保護者90%以上◎ B 80%以上○ C 80%未満▼